

ブロードバンド時代の高臨場感映像コンテンツ制作技術および高品質情報流通制御技術の研究開発(株式会社日立製作所)平成16年度事後評価結果

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>高解像度、高品質の IPD 用の映像を制作し、ネットワークによる配信を行う技術は、今後のわが国の映像産業、更には情報産業の発展において極めて重要であると考えられる。本研究開発は、高臨場感ディスプレイ (IPD) 用の高品質なデジタルコンテンツを制作するシステムと、それを広帯域、高品質にネットワークで送信するシステムに関する開発であり、その技術内容において、十分に高度な水準を達成していると判断される。</p> <p>但し、映像取得と編集を円滑にするための自動化技術については、さらなる研究開発の継続が必要と考えられる。その理由として、これらのシステムが広く普及するためには、コンテンツ制作の容易さと同時に、その制作に要する費用ができるだけ低価格であることが重要であるからである。また、IPD の普及に欠かせないもう 1 つの要因であるネットワークによるコンテンツ配信については、本研究課題で開発されたネットワークの品質制御、設定管理、IP / イーサネット連携などの新たな技術と既存技術とを用いた多用途 IPD システム構築の実績作りが重要である。</p> <p>本研究開発で得られた成果は、これらの新たな課題に対応するのにも十分な技術レベルに到達していると認められる。</p> <p>本研究開発による研究成果を 2 種類の製品・サービスとして事業化を見込んでおり、それぞれの計画は概ね妥当である。但し、IPD コンテンツ制作・コンサルティングサービスにおいては、今後の研究開発が 5 年必要と見込まれており、事業化計画の実現時期に対しては相応の誤差を含むことが考えられる。しかし、本成果を活かしたコンテンツ制作は他社追従が容易ではなく、市場にフィットした価格設定を行い、市場開拓できれば、着実に軌道に乗る可能性を有している。</p> <p>一方、IP アクセス装置に関しては、早期の事業化を予定しており、海外メーカー等との競争も想定されるが、一定の収益を確保できる見込みがある。</p> <p>なお、本研究開発を総合的に組み合わせて、ネットワークでコンテンツ配信を行い各所で高臨場感映像コンテンツを放映するといった新規事業の開拓等も積極的に検討していくことが望ましい。</p>